水辺などにおける地域活動と
地域住民の持つ特性との関係に関する研究

伊藤　嘉奈子[1]・原野　崇[1]・天野　邦彦[1]・冨田　陽子[2]・今村　能之[3]・藤田　光一[4]

[1]正会員　国土交通省国土技術政策総合研究所　環境研究部（〒305-0804 茨城県つくば市旭１）
E-mail: itou-k92ta@nilim.go.jp，harano-t92ta@nilim.go.jp，amano-k92ta@nilim.go.jp

[2]正会員　国土交通省国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター(〒305-0804 茨城県つくば市旭1)
E-mail: tomita-y92r2@nilim.go.jp

[3]正会員　土木研究所 水災害リスクマネジメント国際センター（〒305-8516 茨城県つくば市南原1-6）
E-mail: y-imamura@pwri.go.jp

[4]正会員　国土交通省国土技術政策総合研究所　河川研究部（〒305-0804 茨城県つくば市旭１）
E-mail: fujita-k85ab@nilim.go.jp

水辺などにおいて継続・安定・広がりを持って活発に行われている地域活動と，住民の持つ意識や行動の特性との関係について，ヒアリング調査と住民アンケート調査により分析・考察を行った．

ヒアリング調査と，地域活動支持力と地域活動の活発さに関するアンケート調査を実施し，因子分析と相関分析を行ったところ，「地域における行動規範」「地域に対する愛着」「地域への信頼」「地域内外での人との付き合い」の４つの地域の特性が，地域活動に重要であることを示した．更に，これらの地域の特性は，地域住民が活動を受け入れて支えるような力「地域活動支持力」であることを考察した．

Key Words : *water environment, waterside, local activity, local characteristics of community*

1.　はじめに

近年，平時の河川流量の減少や都市型水害等の問題が顕著となっており，流域全体を視野に入れた水循環系の健全化への早急な対応が求められている．

このような状況に呼応し，行政においても平成10年に健全な水循環系構築に関する関係省庁連絡会議（環境省，国土交通省，厚生労働省，農林水産省，経済産業省）を設置し，平成15年には「健全な水循環系構築のための計画づくりに向けて」をとりまとめている[1)]．この中で，健全な水循環系構築のための基本的方向として「流域における各主体の取り組みの推進」が挙げられており，「各主体の適正な役割分担を踏まえて，住民や事業者等が自主的に取り組むことを推進するとともに，行政も含めた連携が必要である」とされている．

上記のように，水循環健全化への取り組みに際しては，専門家や行政による技術的検討のみならず，流域住民などによる水循環に関わる各種活動も重要な役割を果たすことから，このような地域活動が活発に，継続して実施されることが重要である．

そこで本研究では，流域住民による水循環に関わる各種活動の第一歩となるような「住民にとって身近な水辺などにおける地域活動」を対象とし，このような活動が継続して実施されるための要因について，先進事例へのヒアリング調査及びアンケート調査を通じて明らかにすることを目的とする．

2.　方法

本研究では，まず，水辺などにおける地域活動の事例に対してヒアリング調査を実施し，地域活動が継続・安定・広がりを持って行われるための重要な要因を抽出した．次に，この要因を定量的に検討するために住民アンケート調査を実施し，因子分析・相関分析を行った．最後に，ヒアリング調査とアンケート調査によって得られた「地域活動」と「地域の特性」との関係に着目して，地域活動の実施状況を時系列で分析を行うことで，地域

活動が継続して行われるための要因の考察を行った．

(1) ヒアリング調査

a) ヒアリング対象事例

水辺などにおいて地域活動が活発に継続して行われている事例を対象に，ヒアリング調査を実施した．対象事例は以下の通り，水源地の保全を目指した森林の維持管理（植栽・間伐など），河川や水辺の環境整備や維持管理（植栽・清掃・草刈など）・利活用，雨水利用など，水循環に関わる住民に身近な活動である．

①山口市・椹野川流域における「椹野川の源流を守る会」による環境保全活動
②墨田区・一寺言問地区における「一言会」による雨水利用・防災まちづくり活動
③郡上八幡における用水保全活動
④三島市「グラウンドワーク三島」による水辺環境再生・保全活動
⑤徳島市「新町川を守る会」による環境保全・まちづくり活動
⑥横浜市都筑区・江川せせらぎ緑道における「水辺愛護会」による維持管理活動

ヒアリング対象者は，地域活動において中心的役割を果たしている活動団体の代表（及び一部参加者），地域活動に関わる地方自治体職員，一部地域の自治会長・関係団体の代表である．

b) ヒアリング調査内容

ヒアリング調査内容は以下の通りである．活動が継続して行われるための要因の把握を目的としており，活動の経緯や，活動に際しての人々の意識などを調査した．

①基礎情報（活動の経緯，活動内容，運営・実施体制，参加状況，資金）
②会員，活動・イベント参加者，住民の意識
③活動の効果（地域への貢献・効果の内容，社会的認知，活動の広がり）

c) 地域活動が継続して行われるための重要な要因の推定

b)の調査結果から，継続した地域活動が行われる際に共通する住民の意識や行動について抽出した．住民の意識や行動について，ソーシャルキャピタルの概念を参考にしながら分類し，これを地域活動の継続に関わる地域の特性として推定した．

抽出結果の詳細は後述するが，地域住民の持つ「規範」「信頼」「ネットワーク」「関心」の４つの「地域の特性」が，継続した地域活動に関係していると推定された．

(2) アンケート調査

ヒアリング調査結果から推定された地域の特性を検証し，地域活動の活発さとの関係を考察することを目的に，住民アンケート調査を実施した．

分析では，まず地域の特性について検証するために因子分析を行った．次に，これにより示された地域の特性と地域活動の活発さとの相関分析結果を考察し，両者の関係を検討した．

a) 調査概要

調査は平成19年12月～20年1月にかけて静岡県三島市内の40町内に居住する20歳以上の住民を対象とし，各町100名ずつを無作為抽出して計4000通を郵送配布・郵送回収した．アンケート調査票の回収率は27%（回収数1080通）であった．

調査項目は**表-1**の通りであり，地域活動の活発さ（各住民の地域活動への参加頻度）に関する調査項目と，地域の特性に関する調査項目で構成した．地域の特性に関する調査項目は，「規範」「信頼」「ネットワーク」「関心」の4つの特性それぞれについて，ヒアリング調査により得られた住民の行動や意識，既往研究[2] を参考に設定した．

b) 調査結果の算定方法

アンケート調査結果の分析に際しては，Q1の地域活動の活発さに関する調査項目については，地域活動への参加頻度に応じて0～1の係数に換算し（**表-2**），町毎に集計して平均値を算出した．アンケートの各調査項目の選択肢についても同様に係数換算し（例えば「Q2あなたは地方選挙の時に必ず投票に行きますか」に対する選択肢についてはそれぞれ( )内に示すように係数を割り振っている．「必ず投票に行く（1）」，「たいてい投票に行く（0.5）」，「たまに投票に行く（0.25）」，「投票に行ったことがない（0）」），町毎に集計して平均値を算出した．この各町の平均値を用いて「地域活動の活発さ」や「地域の特性」の分析を行った．

c) 因子分析

13の調査項目（**表-1**中Q2～Q14）と，「規範」「信頼」「ネットワーク」「関心」との関係について因子分析により検証した．

13の調査項目を目的変数，因子分析によって抽出され

表-1　アンケート調査項目一覧

	項目	（支持力）
Q1	自治会による地域活動に参加していますか NPO等による地域活動に参加していますか	-
Q2	あなたは地方選挙の時に必ず投票に行きますか	関心
Q3	あなたはこれからも住んでいる地域に住み続けたいと思いますか	
Q4	あなたの住んでいる地域では，地域全体で改善すべき課題(皆が悩んでいることや困っていること等)があると思いますか	
Q5	あなたは住んでいるところの近くで，自然(川や水辺，樹林，草地など)にふれあえる場所に良く行きますか	
Q6	あなたの住んでいる地域の治安についてどう思いますか	信頼
Q7	あなたの住んでいる地域では，地震などの災害があったとき，困っていれば近所の人が助けてくれると思いますか	
Q8	あなたは三島市を信頼できると思いますか	
Q9	あなたは近所の通路や公園，水辺などに，もしごみが落ちていたら拾いますか	規範
Q10	あなたは家の近くで人に出会ったら挨拶をしますか	
Q11	あなたは家の近くで自動車や自転車を運転したり道を歩いたりするときに，交通マナーに気を配っていますか	
Q12	あなたは地域の回覧板について，きちんと目を通して次に回していますか	ネットワーク
Q13	あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか	
Q14	あなたは町外の人とよく付き合っていますか	

表-2　地域活動への参加頻度の設問に対する選択肢

選択肢	係数
所属しており，ほぼ毎回参加する	1
所属しており，時々参加する	0.75
所属しているが，あまり参加しない	0.5
所属していないが，参加してみたい	0.25
所属していないし，参加してみたいとも思わない	0

る潜在因子を「地域の特性」とし，潜在因子の抽出と解釈により「地域の特性」の構成要素を分析した．

解析ソフトはSPSSを用いて，因子の抽出法は最尤法，回転は因子同士の相関を認めるプロマックス回転により分析を行った．

d) 相関分析

因子分析により明らかとなった「地域の特性」と地域活動の活発さとの関係を把握するために相関係数を算出した．

まず，町別にc)因子分析で抽出された潜在因子の因子得点を算出した．因子得点は各町における「地域の特性」の大きさを表すものである．この因子得点と地域活動の活発さの相関分析（スピアマンの順位相関係数の算出）を行うことで，両者の相関関係を分析した．

(3) 水辺などにおける地域活動の時系列分析

水辺などにおける地域活動開始のきっかけから，実施・継続の各段階において，地域活動と地域住民の意識や行動との関係に着目して，改めてヒアリング対象事例の分析を行った．

3. 結果

(1) ヒアリング調査結果

a)調査結果の概要

調査対象の６事例は，いずれも地域活動団体が結成されてから，5年～10年以上経過している活動団体であり，以下のような活動の概要であった．

活動の現状：いずれの事例も，ある地域（町，市，水辺沿いなどの流域の一部）内において，水辺や森林の維持管理活動，雨水利用を中心とした防災活動や，これらの活動から派生した各種イベント活動が，活動規模や活動状況の違いはあるものの，5～10年以上継続して行われていた．活動は，団体の核となるメンバーが主催し，会員や周辺住民がその活動に参加するというスタイルが多く見られた（2.a）の事例①，④，⑤，⑥）．

活動形態は，町内会とは別の活動団体（NPOなど）が町内会や地域の中心的人物，周辺住民に働きかける形（事例④，⑤）と，町内会単位ではあるが町内会活動とは別に活動を行う形（事例①，②，③，⑥）が見られた．

NPOなどの活動団体による活動で，活動団体が元々地域の状況を詳細には把握していない場合は，町内会や住民と積極的にコミュニケーションを取り，地域の現状や課題を的確に把握することを心掛けていた．

会員などの意識：会員や参加者が，活動への参加を通じて，活動の場に対する所有意識，活動に対する責任感，誇りを持つようになった事例が見られる（事例②，④，⑤，⑥）．一方で，従来から町内会単位での活動が活発に行われており，地域は皆で良くするものだ，町内での活動には参加するものだ，という意識を持つ住民が多い事例も見られる（事例①，③）．

また，活動に主体的に参加していない近隣住民が，活動状況や水辺が綺麗に保たれていることなどを徐々に認識する事例が見られる（事例④，⑤，⑥）．

活動の成果：各事例とも，水辺の環境改善効果などが得られている．これに加えて以下のような事例もあった．初めは清掃活動などをしても周囲の協力が得られず，水辺環境もなかなか改善されず，細々と，自らが楽しめるような形で活動を続けていたが，続けるうちに，現在では水辺が毎日綺麗に保たれるようになり，近隣を散策したり，散策中にゴミを見つけると自ら拾う人が増えた（事例④，⑤，⑥）．

b)地域活動が継続して行われるための地域の特性の推定

①地域活動と住民との関係

調査結果から，地域活動が継続して実施されている事例において，地域活動と参加者や地域住民との間に**表–3**のような関係が見られることがわかった．

地域活動団体は，地域の実情を良く知っていたり，住民と積極的にコミュニケーションを図って地域の課題を掘り起こしていたりするなど，地域に密着し，地域の実情を踏まえた活動を実施していた．

こうした活動が実施されることで，地域住民も地域の課題に共有認識を持ち，積極的に協力したり，積極的には参加しなくとも，活動に反発することなく，住民それぞれに応じた形で活動を受け入れて支えていた（活動状

表–3 地域に密着し実情を踏まえた活動の実施と住民による活動の受け入れ

事例	地域に密着し実情を踏まえた活動の実施（一例）	地域住民による活動の受け入れ
①山口市・椹野川流域における「椹野川の源流を守る会」による環境保全活動	課題認識を持った中心的住民が地域内の集まりなどで働きかける．	元々地域自治意識の高い地域であることから，地域住民が地域内の意見をすぐに統一して活動を支援した．
②墨田区・一寺言問地区における「一言会」による雨水利用・防災まち づくり活動	町内会の中心的なメンバーとその周辺住民等による自主的な活動であるが，町内の住民全体を対象とした活動を実施し，また活動への参加を働きかけることで地域内への周知・参加者を増やす努力行う．	町内会の中心的なメンバーによる活動であることを地域住民が認識し，日常的な活動を通じてメンバーを信頼しており，活動に対して協力的である．
③郡上八幡における用水保全活動	町内会単位で水路維持の活動を実施する．（ただし強制参加はさせない）	町内において水路維持は生活の一部になっている． 参加しない人もまちを汚さないという意識は持っている
④三島市「グラウンドワーク三島」による水辺環境再生・保全活動	住民とのコミュニケーションを頻繁に取り，ワークショップや勉強会を何度も開催することで，地域の課題，やるべきことを整理する．	頻繁なコミュニケーションによりNPOが少しずつ地域で信頼されるようになる． 時間をかけた勉強会等を通じて地域の長所や課題を認識し，整備や維持管理に主体的に参加するようになる．
⑤徳島市「新町川を守る会」による環境保全・まち づくり活動	清掃活動，イベント活動，周遊船の運航，森林保全活動など，多岐に渡る活動を実施する．	活動への積極的な参加，近隣の清掃のみ参加，イベントのみ参加…など，各住民が自らのスタイルに合う参加を行っている．
⑥横浜市都筑区・江川せせらぎ緑道における「水辺愛護会」による維持管理活動	町内の有志が自らが持つネットワークを用いて活動の参加者を少しずつ増やし，企業も巻き込み活動を実施し続ける．	活動が実施されるうちに，周辺企業の参加も促進され，地域の水辺に対する認識も少しずつ変化し，水辺にごみを捨てる人が減った．

表-4　地域活動に関わる住民の意識や行動

地域活動を始める，あるいは地域活動を受け入れて支えるような住民の意識や行動	地域の特性
活動を通じて地域におけるマナーが向上し，挨拶されるようになった，ゴミが捨てられなくなった 水辺を散歩中の人がゴミを拾う	地域での規範
地域活動に際して，信頼されると周辺の人がガレージや水を貸してくれたりする 地域で困ったことがあった際に，行政に相談に行く	地域への信頼
元からの知り合いに声を掛けると比較的簡単に参加・協力してくれる人は集まった 積極的に参加している人に声を掛けられて，お付き合いではあるが活動に参加し始めた 広報などを通じて活動を知り活動に協力した人もいる	ネットワーク
水辺(川や水路)が汚いことが目についてどうにかしなければと感じた 地域の水辺(川や水路等)を散策する人が多くいる	地域に対する関心

況を徐々に認識する，ゴミを見つけて自ら拾うなど）．すなわち，地域活動とそれを受け入れて支える住民の双方の関係が継続した地域活動を支えていた．

②地域活動に関わる地域の特性の推定結果

①で示した地域活動と住民の関係を踏まえて，継続した活動に関連する住民の意識や行動を確認すると，地域活動を始めるきっかけとなった住民の意識や行動，あるいは，地域活動を受け入れて支えるような住民の意識や行動について特徴が見られた（**表-4**左）．

この住民の意識や行動がどういった特性で表されるかを既存の概念であるソーシャルキャピタル（以下SC）の考え方を参考にする分類する．

SCは，各分野[2) 3) 4)]において各々の定義で活用されている概念であるが，現在のSCの議論の元となっているR.パットナムによると，SCとは「信頼，規範，ネットワークといった社会組織の特徴」であり，SCによって自発的な協力が促進され，社会の効率性が高められる[5)]とされる．また，日本におけるSCを活用した調査・研究においてもこの定義が援用されている[2) 6)]．

本研究では，R.パットナムによるSCの構成要素を参考に，地域活動に関わる住民の意識や行動は以下４つの特性で表されると推定した（**表-4**）．

「地域での規範」：　パットナムによるSCでは，一般化された「互酬性の規範」として表され，法的強制力は伴わないが，社会生活の中で模倣・日常的な教育・制裁によって叩き込まれるものであるとされる．

ヒアリング調査では，地域内で共有されたマナー（法的強制力は伴わない）を守ろうとする意識や行動が見られたため「地域内における規範」とした．

「地域への信頼」：　パットナムによるSCにおいて信頼は「社会的信頼」として位置づけられている．

ヒアリング調査では，地域活動が信頼されると周辺の人がガレージや水を貸してくれる，行政を信頼し相談することで新たな活動が生まれるなど，活動への協力を円滑にするものとして「地域（地域住民や行政）に対する信頼」と言い表すことができるような意識や行動が確認された．

「ネットワーク」：　パットナムによるSCでは「市民的積極参加のネットワーク」として位置づけられており，近隣集団やスポーツクラブなど水平的な集団での活動によるつながりがより幅広い協力を育てるとしている．

ヒアリング調査では，地域内外での日常的な人との付き合いや地域の情報など「ネットワーク」と言い表すことができる，活動への参加に繋がる行動が確認された．

「地域に対する関心」：　パットナムによるSCは個人やコミュニティの内部の関係に関する議論が主であることから，「関心」という項目は存在しない．

しかし，本研究では地域における活動との関係に着目しており，ヒアリング調査で「地域に対する関心」と言い表されるような活動開始のきっかけとなる意識や地域の水辺に関する行動が確認されたことから追加した．

(2)　アンケート調査結果

a)各地域の地域活動の活発さの調査結果

各地域（町内会単位）における，地縁的活動である自治会活動の活発さと，非地縁的活動としてNPO活動の活発さの２種類の地域活動の活発さについて把握した（**図-1**）．

自治会活動の活発さは，平均値が0.61，最も活発な地域は0.83，最も活発でない地域は0.37であった．多くの住民が自治会に所属して活動に参加している地域から，自治会に所属しているがあまり活動に参加していない，あるいは自治会に所属していない住民が多い地域まで，地域によって地縁活動の活発さは様々であった．

また，NPO活動の活発さは，平均値が0.22，最も活発な地域は0.40，最も活発でない地域は0.09であった．自治会活動と比較するとNPO活動の活発さは小さいが，その中でも，一部住民が活動している地域から，ほとんどの住民が参加意欲もない地域まで存在し，NPO活動に関しても活動の活発さは様々であった．

なお，自治会活動の活発さとNPO活動の活発さには有意な相関関係は見られなかった．

b)因子分析結果

因子分析の結果得られた因子負荷量は**表-5**の通りである．なお，因子分析の際，潜在因子数はあらかじめ設定しなかった．スクリープロットの傾き，カイザー基準を踏まえると，潜在因子数は3因子あるいは4因子で分析を行うことが適切と考えられたことから，因子数を3及び4として分析を実施した．この結果，因子数4の分析結果について潜在因子の解釈が良好に行えたことから，因子数を4とした場合の因子分析の結果を採用した．

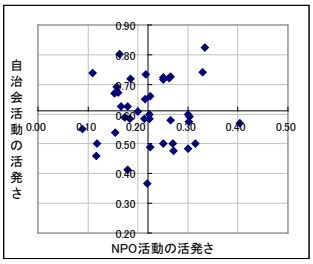

図-1　各地域の自治会活動・NPO活動の活発さ

表-5　因子負荷量

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
9 挨拶の習慣	0.956	0.203	-0.060	-0.200
3 地域の課題	0.625	-0.072	0.062	0.220
10 交通マナー	0.526	-0.072	0.268	0.069
11 回覧板	0.433	0.030	-0.074	0.281
6 災害時の助け合い	0.173	0.884	-0.001	-0.041
5 地域の治安	-0.063	0.615	0.105	-0.010
7 行政への信頼感	-0.292	0.540	0.169	-0.102
2 定住志向	-0.115	0.155	0.683	0.187
4 身の回りの自然	0.069	0.111	0.658	-0.109
1 選挙投票	0.207	-0.050	0.654	0.097
12 隣近所との付き合い	-0.059	0.387	-0.246	0.710
13 町外の人との付き合い	0.194	-0.124	0.059	0.679
8 地域のごみ	0.093	-0.116	0.214	0.545

第１因子：　第１因子の因子負荷量が大きいのは，「あなたは家の近くで人に出会ったら挨拶をしますか（挨拶の習慣）」0.956，「あなたの住んでいる地域では，地域全体で改善すべき課題（皆が悩んでいることや困っていること等）があると思いますか（地域の課題）」0.625，「あなたは家の近くで自動車や自転車を運転したり道を歩いたりするときに，交通マナーに気を配っていますか（交通マナー）」0.526，「あなたは地域の回覧板について，きちんと目を通して次に回していますか（回覧板）」0.433といった項目である．他に「あなたは三島市を信頼できると思いますか（行政への信頼感）」 の因子負荷量が0.292とやや大きいが，第２因子からの因子負荷量0.540と比較すると小さい．

第２因子：　第２因子の因子負荷量が大きいのは，「あなたの住んでいる地域では，地震などの災害があったとき，困っていれば近所の人が助けてくれると思いますか（災害時の助け合い）」0.884，「あなたの住んでいる地域の治安についてどう思いますか（地域の治安）」0.615，「行政への信頼感」0.540といった項目である．その他，「あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか（隣近所との付き合い）」の第２因子の因子負荷量も0.387とやや大きくなっている．

第３因子：　第３因子の因子負荷量が大きいのは「あなたはこれからも住んでいる地域に住み続けたいと思いますか（定住志向）」0.683，「あなたは住んでいるところの近くで，自然（川や水辺，樹林，草地など）にふれあえる場所に良く行きますか（身の回りの自然）」0.658，「あなたは地方選挙の時に必ず投票に行きますか（選挙投票）」0.654といった項目である．その他「交通マナー」の第３因子の因子負荷量が0.268とやや大きいが，第１因子の因子負荷量と比較すると小さい．

第４因子：　第４因子の因子負荷量が大きいのは，「あなたは隣近所の人と日頃からよく付き合っていますか（隣近所との付き合い）」0.710，「あなたは町外の人とよく付き合っていますか（町外の人との付き合い）」0.679，「あなたは近所の道路や公園，水辺などに，もしごみが落ちていたら拾いますか（地域のごみ）」0.545といった項目である．他に「回覧板」の第４因子の因子負荷量が0.281とやや大きい．

(3)　水辺などにおける地域活動の時系列分析結果

ヒアリング対象事例による地域活動と地域住民の意識や行動との関係に着目した時系列分析結果について，以下に２事例の結果を示す．

a)徳島市「新町川を守る会」の事例

活動開始のきっかけ：　新町川では，昭和61年～平成元年にかけて，新町川水際公園整備事業が実施された．水際公園の完成に際して，マスメディアから中心市街地の商店街に対してイベントの提案があり，阿波踊りの時期の昼のイベントとしていかだレースを実施した．その際，どのアングルから川を撮影しても川のゴミが映ってしまうことに商店街の商店主が危機意識を持ち，この商店主と彼の人付き合い（趣味の付き合い，商店街の付き合いなど）によって集まった有志10名程度が，川での清掃活動を始めた．

活動の実施：　中心的な住民による月２回の河川清掃とイベント活動（新町川などを周遊する無料の遊覧船の運航など）が行われた．ゴミを捨てる人がいても黙ってゴミを拾う，年数回ではなく月２回，参加人数が少なくても実施するといった活動を継続的に実施した．また，継続するために活動自体が楽しいものとなるよう心掛けた．すると，少しずつ活動への参加・協力が得られるようになった（近隣住民が街路樹への水やりに水を貸してくれる等）．

活動の継続：　現在は，清掃活動に加えて，川でのイベントを中心に多様な活動・イベントが行われている．例えば，川での清掃が流域全体の課題認識に繋がり，上流域での森林保全・交流活動が始まった．また，純粋に住民が楽しめるような祭りやイベントも開催している．

多くの活動に参加する人や，一部の活動のみ参加する人（例えば森林保全活動のみの参加，河川清掃のみの参加，イベントのみの参加）など，参加形態は様々である．

活動の代表者によると，活動開始から7・8年した頃から川にゴミを捨てる人はほとんどいなくなったということである．

b)横浜市都筑区・江川せせらぎ緑道の維持管理活動「津田江川水辺愛護会」の事例

活動開始のきっかけ：　江川では昭和60年代からアメニティ下水道モデル事業が実施されており，一部住民との意見交換を経て，平成8年江川せせらぎ緑道（農業用水路に下水処理再生水を流すことでせせらぎ水路を再生した）が全面開通した．一部整備が終了し始めた昭和60年代から行政による清掃・草刈が実施されていたが十分ではなく，また，水路が工場の裏手であることから産業廃棄物も多く捨てられていた．

水路整備の際にサクラ並木整備の要望等を出していた当時の町内会長がこれに危機感を感じ，周辺住民何名かに声を掛けて清掃・草刈活動を始めたのがきっかけであ

る．

活動の実施：　基本的な清掃活動は月１度だが，その他にも，中心となって活動する住民らが水路が汚れてきたと感じたら，その都度人を集め，あるいは１人で活動を実施する．また，散策する際は必ずごみ袋を持参するなど，水路は自らの財産だという意識で日常習慣的に活動を行っている．更に，中心となって活動する住民が，日常的に付き合いのある周辺住民に参加の呼びかけを行っている．（しかし参加は強制しない）

活動の継続：　水路の清掃活動のほかに，地元の学校との協働によるチューリップの球根植えや，桜祭りなどのイベントも開催している．

周辺は工場が多く立地しているが，活動を続け，声を掛けることで工場の参加・協力も得られるようになった．更に，　地元マスメディアや区の広報で活動が取り上げられることで，外部に水路や活動が知られるようになった．これによって水路を散策したりイベントに参加する住民が増えた．また，中心となって活動する住民によると，子どもや住民のマナーが向上し，水路にゴミが捨てられなくなったということである．

4　考察

(1)　因子負荷量の解釈（地域の特性について）

3.(2)のb)で分析した各潜在因子について以下のように解釈した．

a)第１因子「地域における行動規範」

第１因子は「挨拶の習慣」「地域の課題」「交通マナー」「回覧板」といった項目の因子負荷量が大きく，これらはいずれも，地域はこうあるべき，あるいは地域ではこう行動すべき，地域においてやるべきことはきちんとやる，という意識や行動に繋がる項目であることから「地域における行動規範」と解釈できる．

b)第２因子「地域内での信頼」

第２因子は，「災害時の助け合い」「地域の治安」「行政への信頼感」の因子負荷量が大きいことから，「地域内での信頼」を表すと解釈できる．なお，「隣近所との付き合い」の因子負荷量もやや大きいが，これについても「地域内での信頼」が近隣での人との付き合いに影響を及ぼしていると考えられる．

c)第３因子「地域に対する愛着」

第３因子は「定住志向」「身の回りの自然」「選挙投票」といった項目の因子負荷量が大きい．

調査項目の作成時には，これら３つの項目に「あなたの住んでいる地域では，地域全体で改善すべき課題（皆が悩んでいることや困っていること等）があると思いますか」を加えた４項目が「関心」ではないかと想定していた．しかし「地域の課題」の因子負荷量は小さく，「定住志向」「身の回りの自然」「選挙投票」のような地域に対して好意的で主体的な意識や行動を表す項目の因子負荷量が大きいことから，関心よりも好意的な「地域に対する愛着」を表す因子であると解釈できる．

d)第４因子「地域内外での人との付き合い」

第４因子は，「隣近所との付き合い」「町外の人との付き合い」「地域のごみ」といった項目の因子負荷量が大きいことから，「地域内外での人との付き合い」を表す因子であると解釈できる．

なお，調査項目作成時には，前者２項目に「あなたは地域の回覧板について，きちんと目を通して次に回していますか」という地域の情報面でのネットワークの項目を加えたものを「ネットワーク」と仮定していた．しかし，「回覧板」よりも，アンケート調査前に「地域での規範」であると想定していた「地域のごみ」の因子負荷量が大きい．近隣でごみを拾うという行動は，ゴミは拾わなければならないという規範的な意識に起因するものではなく，人との付き合いを通じて，家の近隣についても家の中と同様に所有意識を持つようになることから生まれる行動であるとも考えられ，「地域内外での人との付き合い」に影響を受ける項目となっていると考えられる．なお，「回覧板」の第４因子の因子負荷量もやや大きく，人との付き合いを通じて回覧板をきちんと回そうという意識が醸成されているとも考えられる．

以上から，地域活動が活発に実施されているような地域における住民の意識や行動は，「地域における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」の４つの特性で表されることがわかった．

(2)　地域の特性と地域活動の開始・実施・継続との関係の考察

a)地域の特性と地域活動の活発さとの相関関係

(1)で示した４つの地域の特性と「地域活動の活発さ」との相関係数は**表-6**，**図-2**の通りである．

自治会活動の活発さについては，「地域における行動規範」との間に有意な相関が見られたことから，自治会活動は，地域に対する愛着よりも，地域においてやるべきことはきちんとやるといった意識や行動が活動への参加に繋がっていることが考えられる．

NPO活動の活発さについては，「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」と有意な相関関係が見られた．すなわち，NPO活動に参加している住民は，やるべきことをやるという意識が強いのではなく，地域に愛着を持っており，人との付き合いも活発である傾向にある．更に「地域内での信頼」もやや弱いものの相関関

表-6　地域の特性と地域活動の活発さの相関関係

（スピアマンの順位相関係数）

	行動規範	信頼	愛着	付き合い
自治会活動の活発さ	0.480**	0.089	−0.364*	0.091
NPO活動の活発さ	−0.326*	0.270*	0.602**	0.378**

※**は1%水準，*は5%水準で有意な相関が見られた

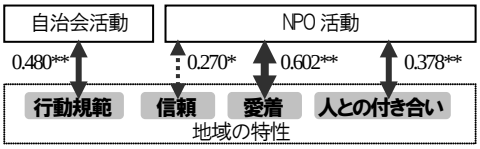

図-2　地域の特性と地域活動の活発さの関係

係にある．

b)地域の特性と地域活動の開始・実施・継続との関係

3.(3)で示した地域活動の時系列分析の結果から，継続した地域活動と「地域の特性」との関係にかかわる共通の特徴について以下に整理・考察する．

なお，対象事例はいずれも自治会活動そのものとは異なった活動であることから，本研究ではNPO活動に分類される活動である．

①水辺などが存在しており，一部住民の「地域に対する愛着」から生まれる地域や水辺への危機意識が活動開始のきっかけとなっている．

徳島市「新町川を守る会」の事例では，イベントを開催した「地域に対する愛着」を持つ住民が，川のゴミに危機意識を持ったことがきっかけとなっている．

横浜市都筑区「津田江川水辺愛護会」の事例では，水路整備時に要望を出していた当時の町内会長が，水辺のごみに危機意識を持ったことがきっかけとなっている．水路整備の際の意見交換と要望の反映が水路への愛着を醸成したことも考えられる．

②一部住民が，自らの「地域内外での人との付き合い」を活用して人を集め，水辺などにおける地域活動を開始している．

③一部住民による活動に触発された，あるいは「付き合い」を通じて声を掛けられた周辺住民が活動に参加・協力するようになる．このような周辺住民は，元来より「地域に対する愛着」が高く，「人との付き合い」が活発であるか，あるいは活動の様子を日常的に見ることで地域や水辺への「愛着」や活動に対する「信頼」が高まったと考えられる．

徳島市「新町川を守る会」の事例では，誰の目から見ても正しいが，強制されない活動が続けられることで，周辺住民の参加・協力が少しずつ得られるようになった．活動を目にすることで，周辺住民の地域や川に対する「愛着」が生まれ，活動が「信頼」されるようになったと考えられる．

横浜市都筑区「津田江川水辺愛護会」の事例では，中心となって活動する住民が，活動に参加出来そうな一部の周辺住民（日常の「付き合い」により「信頼」関係を築いている住民）に声を掛けることで，活動への参加者を少しずつ増やしている．

④地域住民が，継続した活動を目にしたり，マスメディア等を通じて水辺や活動の存在を知ることで，住民全体の地域や水辺に対する「愛着」や活動に対する「信頼」が高まる．そして，各住民の「愛着」「人との付き合い」「信頼」の大きさに応じて，地域住民全体がなんらかの形で活動に参加・協力を行う．

徳島市「新町川を守る会」の事例では，長年活動を継続することで，川が少しずつ綺麗になり，地域住民全体の地域や川への「愛着」や活動に対する「信頼」が向上した．また，多くの住民が何らかの形で活動に参加できるように多彩な活動（森，川，イベントなど）が実施されている．

横浜市都筑区「津田江川水辺愛護会」の事例では，活動が頻繁に継続して行われており，更に，地元メディアや行政による広報が行われており，活動が地域住民全体に周知されるようになった．このことで中心となって活動する住民の「愛着」はさらに向上している．また，地域住民の地域（水路）に対する「愛着」や活動に対する「信頼」が向上し，イベントへの参加者や水辺を散策する住民が増えている．

⑤各住民による活動への参加形態は大きく２つに分けられる．１つは「愛着」や「付き合い」の度合いが大きい住民による「積極的活動参加」（清掃・植栽活動等に主体的に参加する）であり，もう１つは，地域における継続した活動により「愛着」や「信頼」が醸成された住民による「消極的活動参加」（ゴミを捨てない，気づけばゴミを拾う，水辺を散策する，イベントにのみ参加する等）である．

徳島市「新町川を守る会」及び横浜市都筑区「津田江川水辺愛護会」の事例双方において，継続した活動の実施や広報によって，活動が地域全体に浸透した結果，多くの住民による消極的活動が行われるようになった．消極的活動参加は，すなわち地域の「行動規範」の向上としても捉えられる．

特に水辺の維持管理では，地域全体がなんらかの形（積極的活動参加か消極的活動参加）で活動に参加することで活動が継続されると考えられる．また，消極的活動参加の増加が，積極的活動参加者のモチベーションの維持にも繋がっていると考えられる．

c) 地域活動が継続して行われるための重要な要因

a) 及びb)から，NPO活動が継続して実施されるためには，一部の地域住民の地域や水辺への「愛着」や「人との付き合い」と，活動によって地域住民全体の「愛着」「信頼」「人付き合い」が触発され，向上することが重要であることが考察された．

また，3.(1)b)で示した地域活動と住民の関係も踏まえ

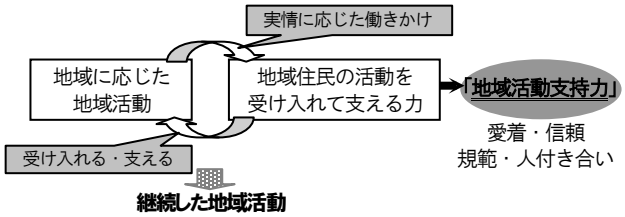

図-3　継続・安定した地域活動のしくみ（地域活動団体による地域活動と活動を受け入れる地域住民との関係）

ると，地域活動が継続して行われるために重要な要因は以下のようにまとめられる．

・NPOなどの地域活動団体が，地域の実情を良く知っていたり，住民と積極的にコミュニケーションを図って地域の課題を掘り起こしていたりするなど，地域に密着し，地域の実情を踏まえた活動を実施する．
・上記のような活動の実施により，地域住民は自らの持つ「地域に対する愛着」や「人との付き合い」の程度に応じて活動に参加する．また，継続した活動は「信頼」を醸成し，これも活動への参加に繋がっている．

すなわち，地域に応じた地域活動が実施された場合，この活動が住民の持つ力によって，地域活動が受け入れられ支えられて，地域活動が継続して実施される．ここで，地域住民の「地域活動を受け入れて支えるような力」は「地域活動支持力」とも呼べる力であり，「地域活動支持力」は，本研究で明らかとなった「地域における行動規範」「地域内での信頼」「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」の４つの特性で表すことができる（図-3）．

7. まとめ

本研究ではヒアリングによる事例調査と住民アンケート調査によって，地域の特性と地域活動の関係を分析し，水辺などにおける地域活動が継続して行われるために重要な要因を明らかにした．

すなわち，ヒアリング調査とアンケート調査から，水辺などにおける地域活動が継続して行われるためには，地域に応じた活動が実施されること，地域住民が「地域における行動規範」「地域に対する愛着」「地域への信頼」「地域内外での人との付き合い」の４つの特性によって表される「地域活動支持力」により，この活動を受け入れて支えることが重要であることを示した．

また，このような非地縁的なNPO活動は，特に「地域に対する愛着」「地域内外での人との付き合い」「地域内での信頼」と関係があることを定量的に示した．

更に，一部住民の持つ「地域に対する愛着」や「人との付き合い」が元となって地域活動が開始されるが，その後は，地域活動の実施によって地域住民全体の地域活動支持力が徐々に向上し，地域活動支持力が向上した住民が地域活動を支えることで，活動が継続して実施されるという関係が考察できた．

謝辞：多くの地域活動団体や地方自治体の方にヒアリング調査及びアンケート調査に際して多大なご協力を賜りました．ここに感謝いたします．

参考文献

1) 健全な水循環系構築に関する関係省庁連絡会議：健全な水循環系構築のための計画づくりに向けて，pp.27，2003
2) 内閣府国民生活局市民活動促進課：ソーシャルキャピタル:豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて，2003.
3) 国際協力事業団国際協力総合研修所：ソーシャルキャピタルと国際効力-持続する成果を目指して-[総論編]，2002.
4) 河上牧子：「地域力」と「ソーシャル・キャピタル」の概念に関する計画論的一考察，pp.205-210，2005.
5) ロバート.D.パットナム（河田潤一訳）：哲学する民主主義　伝統と改革の市民的構造，2001
6) 北海道知事政策部：ソーシャルキャピタルの醸成と地域力の向上-信頼の絆で支える北海道-，2006.

(2009.9.？受付)

RELATION OF LOCAL CHARACTERISTICS OF COMMUNITY TO THE CONTINUOUSLY AND STABILITY LOCAL ACTIVITIES FOR WATER ENVIRONMENT

Kanako ITO, Takashi HARANO, Kunihiko AMANO, Yoko TOMITA, Yoshiyuki IMAMURA, Koh-ichi FUJITA

In this study, the authors conducted hearing and questionnaire surveys to relation of local characteristics of community to the continuously and stability local activities for water environment. As a result, local characteristics of community to encourage people to continuously participate consists of “norms in the local area”, “attachment to the local area”, “trust the local area”, “social thing”. Specifically nonprofit organization activity relates closely to attachment and social things.